

SSKW

巣立ちだより

目次

障害者自立支援法と地域生活支援 1
今後のグループホームの展開 2
福祉ホームが誕生しました 3
愛のふれあいコンサート準備中 4
クラブハウス講演会 5
職員勉強会（武田牧子氏を招いて） 6
出張講演会・新年会 7
講演会のお知らせ・賛助会から 8



障害者自立支援法と精神障害者地域生活支援

巣立ち工房施設長 松岡恒夫

今年の4月から、障害者自立支援法が始まり、障害者福祉が新しい法律に基づく制度に移行していきます。巣立ち会が今まで提供していた精神障害者福祉サービスは、法律が変わり、制度が変わることにより変化していきます。

大きな変化は、精神障害が身体・知的と福祉としてひとつになり、ニーズに即した地域生活支援の構築が可能になったことです。例えば、これまで巣立ち会ではこひつじ舎で3年間、巣立ちホーム三鷹第2で10年間、巣立ちホーム調布第4で約1年間、地域社会ケアを申請しても行政が認可しないため、公的運営費ゼロでサービスを提供してきました。このようなことは、日本のあちこちであったことでしょう。

今回の法律の施行でこれが変わります。先進国の中で遅れている精神障害者の地域ケアが全国的に大きく伸びる基盤ができました。

いままで日本の精神障害者の社会サービスは、医療に偏ったまま年数を重ね、社会的入院が問題とされてからもずいぶん経ちました。精神障害施策の根拠法であった精神保健福祉法では、施策は医療がほとんどで、地域ケア施策はほんの少しでした。言い換えれば、病気の話し(精神病)ばかりで生活の話し(福祉)が聴こえないものでした。

それがこれからは精神障害者の福祉サービスが、わが国で初めて独立した法律として、障害者自立支援法になりました。

しかし、これで自動的に充実した精神障害者の地域福祉サービスが成立したわけではありません。厚労省も言っているように、社会的入院7万人の解消に向けてのスタートに立ったことにすぎません。第一に地域福祉サービスの提供が整備されないと、ニーズに間に合いません。障害者自立支援法では供給サイドの基礎が示されただけです。供給の担い手が今まで以上に現れないといけません。

精神障害者の必要な地域ケアが本格的にできるかどうか、わたしたちにボールが投げかけられたということだと思います。どう中味を充実していくかは、日々の実践を重ねて行くしかないでしょう。当事者支援の本当の姿を見失わず、緊張して「始まり」に取り組んでいきます。

障害者自立支援法と今後のグループホームの展開

巣立ちホーム調布世話人 尾川優子

これまでのグループホーム運営体制は、グループホーム1ヶ所毎に世話人が置かれ、支援するという体制を取っていた。この度、障害者自立支援法の施行により、数箇所のグループホームを一つのコミュニティとして捉え、地域と協力して援助体制を築いていくことが可能な体制へと変わる。

これは当会が15年前から積み重ねてきた活動、すなわちグループホームを増やし、長期入院者の退院支援を行ってきた実績を後押ししてくれる法律の制定といえる。

これまで当会では、精神科に長期入院し帰る家のない方々を中心に住居提供をし、日中の居場所を確保すると共に、生活場面での支援を行ってきた。住居の確保には数多くの苦労もあったが、今では地域の中で積極的に住居探しに協力して下さる不動産屋もある。

旧制度ではグループホームの数を限定されていたため、自主運営という形を取らざるを得ない場合もあった。それが新法では、必要があればグループホームを運営することができる体制となる。既存のアパートをグループホームとして借りられる機会が、より増えていくことで、地域へ根付き、地域の理解も浸透していくと信じている。



精神科の病院には、まだまだ社会的入院をされている方が多くおられ、働きかけによってニーズは限りなく出てくると思われる。グループホームの入居者からは「退院できて、本当に良かった」「今が楽しい」という声を頻繁に聞く。より多くの人に、地域での生活を味わってもらうためには、今後もグループホームを増やしていく必要があり、そのためには今が絶好の機会である。

作業所は5年の移行期間が設けられているが、グループホームは先に4月から施行されている。運営費の算定方法も大きく変わり、ハード面での混乱も予想される。サービス提供についても、評価は厳しくなる。

その分、良質の支援サービスに対し良い評価が与えられる法律である。今まで以上に、利用者のニーズに基づいた支援を検討し、利用された方が楽しく生き生きと、地域で生活を続けていけるような支援を提供していきたい。

福祉ホームが誕生しました

H18年3月に、巣立ちホーム調布第5として、福祉ホームが誕生しました。

この福祉ホームは、巣立ちホーム調布が道路拡張のための立ち退きを迫られたとき、東京都に一棟丸々借りることができる場所を紹介して頂いた場所のひとつです。地主の方がすぐ近くに新築アパートを建てるのを、巣立ち会に貸して頂けそうだという話から、今回の巣立ちホーム調布第5ができました。

建物には、居室が13室と、皆で食事をする集会所があり、巣立ち会初のオートロック・エレベーター付きの立派なマンションです。



（4階建ての豪華マンション）

大家さんの鈴木様は民生委員もされており、「人に貢献することをしたい」とおっしゃって下さいました。

現在、入居予定のメンバーが次々に外泊訓練をしています。最初の外泊では、ついつい開放感からかお酒を飲んでしまった人や、間違えて非常ボタンを押してしまった人もいましたが、その後は順調に進んでいます。一番早い人で3月28日入居予定です。

入居予定者のなかには、現在まで40年弱の入院生活をしていて、退院・ホーム入居に向けて準備している人もいます。「アパートを探してくれ」と言い続けたことが、ようやく現実になろうとしています。

巣立ち会では、平成17年8月から東京都の委託を受けて、精神障害者退院促進モデル事業を行っています。今回入居する方々は、全員が退院促進モデル事業の対象者となっています。

今後も地域のつながりや力を大切に、一人でも多くの社会的入院者が地域に帰れることを目指していきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

管理人から一言

3月から調布第5の管理人になった鈴木です。今まで調布第2の世話人として長年やってきたので、今回は心機一転！新たな気持ちで頑張りたいと思います。皆様、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

管理人：鈴木

外泊の感想 J.K

一回目の2日は車の往来で眠れなく4時頃寝ついて6時半に目が醒めた。3日は午後10時頃寝つき朝6時30分頃目が醒めた。二回目はすんなりと午後9時頃2日間寝付いた

エアコンはオートで室内の温度は適度に保てるし大変便利だ。今まで買ったものは冷蔵庫は管理人から貰った。洗濯機は12日の日曜に届く予定。その他炊飯器も買った。今後そろえていかなばならぬものが沢山あるがじょじょに...

ちなみにあわただしい外泊中であつたが管理人室で食事も作ってくれたしバーミヤンで食事もした（二回目）価値ある5日間だった。

巣立ち会 第3回 愛のふれあいコンサートを開催します

前号でもお知らせした通り、来る7月3日(月)に巣立ち会第3回「愛のふれあいコンサート」開催が決定いたしました。

1992年に当会が活動を開始して以来、私たちの活動にご賛同・ご協力くださっている皆様へ感謝の気持ちを伝えること、そしてさらに多くの方々に当会の活動を知っていただくことを大きな目的として、これまでに2回のコンサートを行い、たくさんの方々にご来場いただきました。皆様に支えられ少しずつ定着しつつあるこのコンサートも今回で3回目を迎えることとなりました。今回のコンサートにおいても、場に集う皆様に音楽を通して新たな交流が生まれ、楽しいひと時を過ごしていただけるよう準備を進めております。



また、これまでのコンサートを通して皆様から賜りましたご寄付を、巣立ちホーム調布第4の設立・運営の資金とさせていただきます。この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。そして今回におきましても、3月1日に事業を開始しました巣立ちホーム調布第5の運営資金とするために、コンサート会場にチャリティーボックスを設置させていただきます。

皆様のご協力をお願いするとともに、ご来場を心よりお待ちしております。

場所:調布市文化会館たづくり2階 くすのきホール

開場:18:00 開演:18:30(終演:20:45を予定)

入場無料

出演:第1部 ベアンテ ボーマン(チェロ)/ボーマン ルリ子(ピアノ伴奏)

- ・ J.S バッハ :アリア
- ・ サン・サーンス :白鳥
- ・ ヴァレンティニーニ :ソナタ 10番より 第1楽章と第2楽章
- ・ エンリコ・マイナルディー編曲 :日本の歌 他

第2部 御邊 典一(ピアノ)

- ・ バッハ/ブゾーニ編 :シャコンヌ
- ・ E.レクォーナ :アンダルシア(スペイン組曲) 他

詳細については、同封のチラシをご覧ください!

クラブハウス講演会を振り返って

三鷹市精神障がい者自立支援事業担当 長門大介

3月8日(水)の午後に、三鷹市精神障がい者自立支援事業(ピアサポート事業)の一環として、東京都内3ヶ所のクラブハウスからメンバーとスタッフを呼び、講演会を開催しました。

当日は100名を越える参加があり、予想外の人数で急遽いすを追加するような状況でした。また、全体の半数以上が当事者の方々に、関心の高さもうかがえました。

内容は、クラブハウスはばたきから過渡的雇用、JHC 板橋会サン・マリーナから自助グループ、そしてストライドクラブからパートナーシップという、クラブハウスモデルの特徴についての説明があり、加えて各所からメンバーの体験談も加わり、バラエティーに富んで内容豊かな講演会となりました。

質疑応答でも「メンバー間のトラブルはないのか?」「おおぜいの人の前で話すコツは?」など、最後まで会場も一体となって話が続けました。

講演者の方々や、参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。

クラブハウスモデルを日本で実現させようと考えるときに、制度(助成金)がないことももちろんですが、一番の障害となるのが「職員と利用者のパートナーシップの確立」ではないかと思います。

職員室がなく、職員会議がないことに耐えることができる、リカバリーを熟知した職員。そして役割や責任を、自らが成長する貴重なチャンスと考えることができる利用者(コンシューマー)。お互いがそうやって初めて本当のパートナーシップが結べるのではないのでしょうか。

そのように意識を変えていくために、職員と当事者が一緒に学ぶ機会を増やす必要があるでしょう。



(壇上の講演者7名)

ニューヨーク・ファウンテンハウスを紹介した記事に、近隣の病院を退院して初めてクラブハウスに足を踏み入れた当事者の感想が載っていました。「驚いたね、どのメンバーもするべきことがあるんだ。病院のデイケアとは違って、ずっと活気がある。初めて人生に希望が持てたよ」(日経新聞、1997年4月2日)。

私たちの施設をそのように進化させていきたいと考えた時に、クラブハウスモデルから学ぶことは多いのではないかと思います。

自立支援法に話題が集中しているなかですが、当事業では平成18年度も、様々なピアサポート事業を進めていきます。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

講演者のみなさん一人一人が自分の気持ち・思い・考えを緊張感がありながらも率直に語っていらしたことに感動しました。

ユーザー会議の開催に向け、リーダーチームのエンパワーメントを期待しています。一緒に参加させてください。会議のあり様など、学ぶことがたくさんあります。

(三鷹ひまわり第二共同作業所 山口真二)

職員勉強会 （福）桑友 武田牧子氏を迎えて

巢立ち工房 伊藤はるか

2月28日（火）の夜に巢立ち風にて、島根県の社会福祉法人桑友の武田牧子氏を招いて、職員の勉強会を行いました。武田氏は厚労省の社会保障審議会の委員を務めるなど、障害者自立支援法の成立に深くかかわっており、今回の勉強会では、自立支援法の話を中心に、桑友の活動についても聞かせていただきました。

自立支援法については、法律や制度の詳しい内容に加えて、法案を作る過程での思いや根拠などについて知ることができ、新しい視点から考えるきっかけとなりました。特に武田氏ご自身が力を入れて行ってきた就労支援は、巢立ち会にとって大きな課題のひとつであり、参考になりました。

これまで就労支援については、ともしれば能力があり就労の意思がある方を中心にサービスが考えられてきました。しかし「就労したい!」という強い気持ちがなくとも、就労することによって社会適応能力が回復したり、ステップアップへの意欲が高まるということは非常によく見られることで、そのためには能力や意欲のある方だけに就労支援をするのではなく、すべての人に就労支援が必要となるのではないか。このことをひとつの信念として、自立支援法では誰もが働くためのサービスを受けられるような制度を作るために努力をされたとのことでした。



自立支援法に移行した後では、これまで各々の障害ごとに複雑な形態であった日中活動の場が、三障害共通の6種類の事業形態に見直されます。現在、当会で運営している小規模授産施設や共同作業所については、これまで以上に就労支援に力を入れた事業内容・職員体制での施設運営が可能となります。その反面、居場所的要素が強い内容の施設については、より効率的な運営が求められます。

当会では、長期入院者の退院促進に力を入れており、必然的に利用者の年齢も高くなりがちです。特に巢立ち工房では利用者の平均年齢が55歳という現状です。就労したいという思いを抱えながらも、自分の年齢や加齢に伴う体力の低下等に向き合うということが、メンバーの直面している大きな課題のひとつであるように思います。また退院し、これから単身での生活を整えていこうという人も増えてきており、メンバー同士の支えあいの力をより大きく広げていくことにも力を入れる必要があります。職員としてはそのようなメンバーの葛藤にどう寄り添っていくか、また人数が増えてきている中で、個別性の高い就労支援や生活支援をいかにやっていくかということが、当面の課題となってくるのではないかと考えています。

年齢や性別、通所にいたるまでの経緯は様々で、当然一人一人違ったニーズをもっている利用者にとってどう応えていくかということは、簡単に答えの出せるものではありません。これから新しい制度をよく学び上手に活用しつつ、これまで皆で作ってきた温かい雰囲気を持続し、居心地のいい空間を共有していくことを、メンバーと一緒に試行錯誤しながら考えていきたいと思っています。

大忙しの出張講演会 2月から3月の活動

- | | |
|------|------------------|
| 2月7日 | 長谷川病院リハビリグループ |
| 15日 | NPO人材開発機構（体験談発表） |
| 16日 | 〃（ピアカウンセリング模擬講座） |
| 17日 | 病院看護師研修（西多摩編） |
| 21日 | 井の頭病院1 - 8病棟 |
| 23日 | 山田病院（研精会、調布） |
| 3月1日 | 武蔵野中央病院 OT グループ |
| 4日 | 精神科作業療法協会研修会 |
| 25日 | 東京つくし会 |
| 28日 | 長谷川病院リハビリグループ |

出張講演依頼受付中！
お気軽にご相談下さい（担当・長門）

メンバー数人と職員で、地域の病院などをはじめあちこちに出向き、いろいろな方々に話を聞いてもらう「出張講演会」は、当会が現在力を入れている活動のひとつです。

特に2月から3月にかけては依頼が多く、メンバーの調整も一苦労でした（左記参照）。最近では専門職の研修会や家族会などからの依頼も多く、「退院促進事業」や「ピアサポート事業」についても、注目の高さを感じます。

もちろん、メンバーもどんどん手馴れてきていて、様々な質問に答える姿からも、自信が感じられるようになってきました。

今後もあちこちに出かけていきます。ご期待下さい。

巣立ち会合同新年会

2006年1月31日。まさに1月が終わろうとしていたその日、「このままじゃ年が明けたとはいえない！」とばかりに勢いよく、滑り込みでの新年会が巣立ち工房で催されました。

今年は新しいメンバーの方もたくさん加わって約70人の人たちが集まりました。散らし寿司に焼きそば、おでん、おしるこ各所が腕を振って持ち寄った豪華な食事に、ビールやカクテル、ジュースをとにかく呑んで、景気よくワイワイと楽しみました。



（ビンゴ大会でにっこり）

「はずれなし」という素敵なビンゴ大会でワクワクドキドキしたあと、出し物では、工房による二人羽織で会場を沸かせ、風のメンバーもよる小唄、こぶしのきいた（？）演歌で盛り上がり、締めには、なんと・・・こひつじ舎のメンバーによるお琴の生演奏に生合唱と、なんとも贅沢な会になりました。

メンバー、職員の皆さんいかがでしたか？今年もまた、みなさんの元気で迫力のある食べっぷり呑みっぷりを拝見して「がんばっていくぞ～」という気持ちになりました。

巣立ち会にとって戌年だけにワンダフルな年になりますように。（お粗末さます・・・）そして今年も一年よろしくお願い致します！！

三鷹市精神障がい者自立支援事業

セルフヘルプとピア・アドボカシー講演会

昨年の講演会に続き、今年もアメリカ・カリフォルニアから講師をお招きします。
当事者活動の発展のために押さえるポイントは何か?リカバリーを地域に広げるためには?
どなたでも参加できます。ぜひお越し下さい。(参加費無料、通訳がつきます)

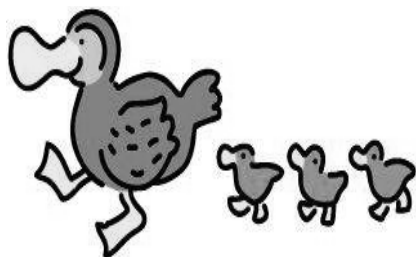
開催日時 平成18年6月10日(土)午後1時~午後4時
会場 三鷹市市民協働センター 第1会議室
講師 コニー・ロビンソン氏(前サクラメント郡権利擁護事務所ペイシエント・アドボケート)
ニール・ロビンソン氏(前サクラメント郡コンシューマー・セルフヘルプセンター)

*講演会の詳細や参加申込方法は、当会のホームページや電話等でお確かめ下さい

賛助会からのお知らせ

たくさんの方々から、会費やご寄付をいただいております。ありがとうございます。
(平成17年度分として)

川上和枝様、増子容弘様、高橋敬三様、大田司様、今野紀子様、河田イセ様、黒岩あい様
(1月13日から2月7日到着分)



賛助会費

年間 一口 3,000円
郵便振替 口座番号 00140-4-542860
加入者名 巣立ち会 賛助会

巣立ち賛助会 会長 國井良彦

編集後記

無事に勤続10年を迎えました。えー?という
声が聞こえてきそうだが事実なので仕方がない。
最近の実感は「石の上にも30年」なのでまだまだ
先は長い。10年後も「巣立ちだより」を編集
してたら笑うなあ。ありそうで怖いけど。(長門)

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
定価 50円

編集; 社会福祉法人巣立ち会
〒181-0014 東京都三鷹市野崎2-6-6
Tel・Fax 0422-34-2761
<http://sudachikai.eco.to/>
sudachi-kaze@sudachikai.eco.to
広報委員会(長門・鈴木)